



トリノ通信 Vol.2 スペシャルオリンピックス(SO)の魅力とトリノ大会の様子を、シリーズでお伝えしていきます！

TORINO Newsletter Vol. 2: A series of reports on the appeal of Special Olympics and the World Winter Games Turin 2025 !

－スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノが開幕しました

トヨタ自動車、社会貢献部・SO事務局です。

3月8日、現地時間の18時、スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノが開幕しました。事務局もこの開会式に参加させていただきましたので、トリノ通信Vol.2では現地の様子をお伝えします。

★ユニファイドな入場行進

素晴らしいお天気に恵まれた3月の土曜日、イタリア北部にある第4の都市トリノには、世界中から集まったスペシャルオリンピックスの関係者の笑顔が、街のあらゆる場所に溢れていました。

会場のイナルピアリーナは2006年のトリノ冬季五輪でも使われた場所ですが、今はパラスポーツの会場として市民に愛される場所だそうです。

スペシャルオリンピックスの開会式は、毎回、アスリートと関係者の入場行進で幕が上がります。入場行進で、色とりどりのユニフォームを着て満面の笑顔で入場してくる各国の選手団。あれれ、公式発表されている選手の数はい500名なのに、目視すると、おそらくそれ以上が会場を行進している。どうしてか？

それは、スペシャルオリンピックスが、選手だけではなく多くのサポーターやボランティアによって支えられている大会であり、入場行進も、アスリートと彼らが手をつないだり、一緒に踊ったりしながら、まさにユニファイド（障害のある人もない人も共に活動すること）を体現する入場行進になっているからなんです。

★ SO国際本部 シュライバー会長の挨拶で、会場の熱気は最高潮に

入場行進のあと、多くの関係者がアスリートへの歓迎のメッセージを送ったのですが、中でも盛り上がったのはシュライバー会長のご挨拶。司会が会長の名前を呼ぶだけで歓声があがったり、情熱的なスピーチの中で何度も拍手が起こり、ショーがストップしてしまうほどでした。

スペシャルオリンピックスの創始者であるユニス・ケネディ・シュライバーのご子息であるシュライバー会長。

スピーチの中で満席の会場に向かって呼びかけたのは、

「世界中の仲間が集うこの場所は、出身国の違いや国境のない安全で一番幸せな場所。この大会を通じて、私たちもまた、アスリートたちの挑戦や勇気に触れ、応援しあうことで成長できる。そして、一度でもアスリートに向き合えば、その時点であなたの人生が変わる。」

10日から始まる試合の中で、アスリートたちはきっとそのシュライバー会長の想いにこたえてくれるはずです。

今回のレポートでは、この大会をサポートするTME（欧州トヨタ）やTMI（イタリアトヨタ）の活動やその思いをご紹介します。

日本から大会への熱い声援をお願いします。